

デジタル・分散型金融への対応のあり方等に関する研究会（第11回）

参考人説明資料を踏まえた意見

野田 俊也

本日は学務と重なり、出席できないので、書面でのコメントで失礼させていただきます。

有価証券を電子化・トークン化することにより、市場・取引・業務を効率化する、今までにできなかった新しいサービスを実行可能にするという試みには大きな価値があると感じています。

今までと同じプロセスを効率化するというタイプの進歩について、理論経済学者として提案できることはありませんが、価値のある仕事だと思えます。

注意を喚起したいのは、トークン化、特にスマートコントラクトを利用可能にすることは単なる効率化だけではなく、今までに遂行できなかった契約や取引も遂行できるようにする技術革新であることです。もちろん、集権的な管理者がいるセキュリティトークンのサービスでは、イーサリアムと同じように自由にスマートコントラクトを契約することは許さず、利用可能なスマートコントラクトの形を限定することになると思いますが、それでも色々な新しい取引ができるようになるはずで

第2回の研究会でも指摘したことですが、「これまでできなかったこと」の中には、できたら便利で社会が助かることもある反面、社会にとって害となるものも存在しえます。プラットフォームとしての環境整備、ならびに規制官庁としてモニタリングする際には、このようなことが起きていないか確認することが重要になると思えます。

以上